

# 高校野球の場内アナウンスの音声について\*

福盛 貴弘<sup>†</sup>・白井 優香<sup>††</sup>

**【要旨】**本稿の目的は、高校野球の場内アナウンスにおける音声の特徴を記述することである。被調査者は、現役で場内アナウンスをしている女性である。結果として、以下の特徴が観察された。(1)区切れは文節を基準とし、文節頭で句頭の上昇調が見られる例が多数である。また、句頭の上昇調は通常の発話より変化の度合いが大きい。(2)発話中のポーズは平均 435.6ms であり、発話全体の 20.2% を占める。(3)発話速度は、通常の発話に比べて球場アナウンスの方が遅い。

**キーワード：** 高校野球、場内アナウンス、球場調、通常調、音声学的文体論

## 1. 序

高校野球をテレビで見ていると、試合中に「1 番サード岩鬼君。」「ライトの里中君が、ピッチャー。ピッチャーの渚君が、ライト。」など、女性の声による場内アナウンスが聞こえてくる。高校野球での場内アナウンスは、通常の口調とは異なり、ニュース報道のアナウンスとも異なる。場内アナウンスは、試合に直接関わるもの以外の様々なアナウンスが行なわれている。これらは実際に球場に足を運ばないと聞くことができない場合が多い。本研究では、野球場で場内アナウンスをされている方に、『高校野球アナウンスマニュアル.jtd』に書かれた文を読みあげてもらい、その音声の文体的特徴を記述することを目的とする。

音声学的文体論の学史、概観については、河西(2016)に記されている<sup>1</sup>。また、河西(2016)では、

これまでの研究ではイントネーションの文体的機能について認めてはいるものの、全体像は掴めていない。郡(2006)では、日本語の様々な口調について分類をしているが、それぞれ個々の口調の特徴については研究されていない。よってイントネーションの文体的機能について今後解明していく必要がある。

---

\*まずは、城生佰太郎先生のご逝去を心よりお祝い申し上げます。そして、古希記念論集刊行に携わった全ての方に感謝申し上げます。

本稿は 2015 年度に大東文化大学外国語学部日本語学科に提出された卒業論文「高校野球のアナウンスにおける音響音声学的研究」(白井 2016)のデータをもとに、筆頭執筆者の福盛が全面的に加筆改訂したものである。

<sup>†</sup>大東文化大学外国語学部

<sup>††</sup>本学会会員

<sup>1</sup>古くは Trubetzkoy (1939)における「文体的に有意義な変種」や Guiraud (1957)における「印象的価値による文体的異形」で指摘された特徴であり、郡(1997: 172)における「会話調や朗読調など話し方のスタイル」、城生(2012: 132-133)における「「○○らしさ」を表すのに機能している部分(中略)政治家の演説調、大学教授の講義調、お笑い芸人のつつこみ調にボケ調など」、岸・福盛(2013: 372-373)における「狭い意味では個人の癖だが、広い意味ではある役割を担った発話者が TPO に応じて顕在化させる音調によって自身の役割を示す働き」が該当する。

という指摘がなされている。イントネーションの文体的機能は今なおまだ枠組みが固まっている状況ではないことが窺知される。こういった状況下で行われる記述研究というのは、必ずしも任意の先行研究を追従するものではなく、まずはボトムアップ的にデータを積み上げるべきである<sup>2</sup>。そこで、本稿では、個々の音声の調査を積み上げ全体像をとらえるという方向を目指すために、音声学的文体論という観点から捉えた、その一部の特徴を公表することにいった。

## 2 方法

### 2.1 被調査者

株式会社ベースボールプランニング(本社：兵庫県伊丹市)に在籍され、現役で場内アナウンスをされている30代女性に協力いただいた。被調査者の言語形成地は兵庫県伊丹市、アナウンス歴は2004年から始まり調査時で11年である。

### 2.2 調査資料

調査資料は、『高校野球アナウンスマニュアル.jtd』の中から抜粋した文章である。『高校野球アナウンスマニュアル.jtd』は、インターネット上にも公開されている高校野球のアナウンスマニュアルであり、試合の中のどの場面でアナウンスを入れるかなどが事細かに記されているものである。

被調査者と相談の結果、試合中のアナウンスは目の前で試合をしていない時は読みにくい、通常の口調では言いにくいということになった。よって、拘束時間の都合を鑑みて、以下の項目についての読みあげを行なってもらった。示したページはマニュアルにおけるページ番号である。

場内アナウンスの概要 pp.4-9

V. 試合終了 p.9

1. 試合終了後 p.9

2. 最終試合終了後 p.9

その他 pp.10-15

III. 観客への諸注意事項など pp.12-13

1. ファウルボール p.12

2. バックスクリーン内へ入った観客への注意 p.12

3. 内野席の柵の前に立っている観客への注意 p.12

4. 応援団への注意 p.12

a. 外野両翼のポール付近に応援の横幕を張っている場合 p.12

b. 選手等の個人名を旗やのぼりに書いてあるものの持ち込み p.12

c. 両校応援団、ゴミの処理 p.12

5. その他諸注意事項 p.13

---

<sup>2</sup>手探りでデータを積み上げ、徐々に全体像を解明していくスタンスではなく、誰かの方法論の尻馬に乗り、全体像が見えないと研究ではない、不安で仕方がないとする研究者がいることは事実である。ここでは、その是非は問わない。ただ、本研究のようなスタンスを認めない学会も少なからずあるため、本稿を本学会に寄稿した次第である。

a. スタンド禁煙 p.13

b. 不審物注意 p.13

IV. 天候不良 p.14

1. 第1試合開始前、天候が不順な時 p.14

(グラウンドコンディション不良で、整備のため試合開始を遅らせる。試合を行える状態の場合のみ) p.14

(グラウンド整備のため、時間がしばらく経過した時点で、試合を行える状態の場合のみ) p.14

(試合を行える状態で開始時刻が決まったら) p.14

(試合開始時) p.14

2. 天候不良の中を試合開始 p.14

(a) 中断 p.14

(中断してからしばらく経過した場合、大会本部からの指示で) p.14

(b) 試合再開 p.14

(c) グラウンドの手入れ p.14

(雨でグラウンドに水が浮いたりしている場合、土を入れる等の整備をしてから試合を再開することがある。) p.14

(試合再開の時には) p.14

## 2.3 調査方法

2015年10月15日(木)に、兵庫県西宮市にある株式会社ベースボールプランニングの甲子園オフィスにて、調査内容の概要や承諾に関する説明を行い、その後録音を行なった。先方の都合上、時間に制約があったため、すべての作業を1時間半で終えた<sup>3</sup>。

被調査者には、調査資料で示した範囲のマニュアルの文章を、球場内アナウンス調(以下、球場調)と通常的口調(以下、通常調)とを区別してもらうよう、事前に下読みをしてもらった。通常調は普段話している発話速度で発話してもらった。

説明と練習を終えた後、ヘッドホンマイク(サンワサプライズ社製 MM-HSUSB7 WUSB)を装着して読んでもらった。録音音声は、サンプリングレートを44100Hzとし、量子化は16bit、モノラル録音という設定である

## 2.4 解析方法

解析には、アニモ社製の杉スピーチアナライザーを用いた。このソフトを使って、文章ごとのピッチ修正を行なった上で基本周波数曲線を析出し、発話部分及びポーズの時間長を目視で計測した。

<sup>3</sup>調査者側の段取り(機材のセッティング、片づけなど)に加え、被調査者がマニュアルの「放送をする前に pp.1-3」の「IV. アクセントのチェック p.3」に従ってアクセントを確認する時間および原稿のどこを区切るかについてスラッシュを入れる時間も含まれている。

### 3 結果

#### 3.1 区切れに関して

##### 3.1.1 学校名の区切れに関して

マニュアルには、(校名 A)、◇◇◇◇、○○高校といったように、学校名は記されていない。そこで、今回は被調査者と相談の上、「日大文理高校」と「中京大中京高校」という実在の学校名を用いて、読んでもらった。その結果は、以下のとおりである。ポーズ<sup>4</sup>がある場合は//、ポーズはないが句頭の上昇がある場合は/で示す。

- (1) ご覧のように//10 対 9 で、//中京大/中京高校が//勝ちました。//ただ今から、//中京大学附属/中京/高等学校の//栄誉をたたえ、//(場内アナウンス V. 1)<sup>5</sup>
- (2) 日本文理高校、//中京大/中京高校、//両校/応援団に//お願いいたします。//(場内アナウンス V. 2)

基本的に高校名のアクセント単位は 1 つである。例えば、「日大文理高校」は一まとまりで読みあげている。ただし、例外的に大学の付属校の場合は、アクセント単位は 2 つになる。ここでの例では、「中京大/中京高校」のように「○○大」の後ろに区切れを入れることになっている。なお、試合に勝った高校については、高校名を略称で呼ばず、正式名称で呼び直すのが慣例である<sup>6</sup>。その際は「中京大学附属/中京/高等学校」のように「○○大学附属」の前で区切り、「○○高等学校」の前でも区切るため、アクセント単位は 3 つとなる。球場調の基本周波数曲線(単位：縦軸 Hz、横軸 ms)を図 1-1~1-3 で示す。ポーズを含めた発話時間長(単位：ms)については、表 1-1~1-3 で示す。

また、句頭の上昇調は通常調より球場調の方が上昇の高低差が大きく、例えば「ご覧のように」では、通常調が 108Hz の変動幅であるのに対し、球場調は 149Hz の変動幅となっている<sup>7</sup>。この違いについては図 2 で示す。また、球場調は区切れが多いため、通常調より全体の発話時間長は長くなる(表 2)。

なお、この区切れについては、今回の調査での「中京大中京高校」6 例、「中京大学中京高等学校」2 例、「日大文理高校」5 例で、全て一貫していた。

<sup>4</sup>本研究では 100ms 以上の無音区間をポーズとした。

<sup>5</sup>表記および句読点については、全てマニュアル通りに表記している。

<sup>6</sup>マニュアルの「放送をする前に pp.1-3」の「Ⅲ. 学校名の確認 p.3」に「試合中は略称で放送するが、勝利校の校旗掲揚時は、略さず放送している。」と記されている。

<sup>7</sup>文頭の出だしについては、通常調が 213Hz、球場調が 215Hz と安定した高さで始まっている。

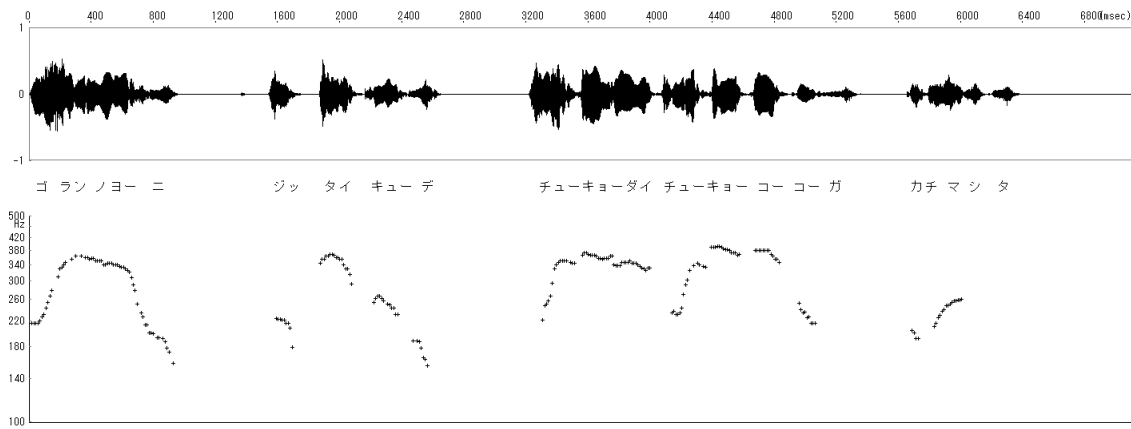


図 1-1 : 「ご覧のように//10対9で、//中京大/中京高校が//勝ちました。//」の  
基本周波数曲線

表 1-1 : 「ご覧のように//10対9で、//中京大/中京高校が//勝ちました。//」の  
発話及びポーズの時間長

ご覧の～	ポーズ	10対9で	ポーズ	中京大～	ポーズ	勝ち～
952	592	1132	556	2116	308	731

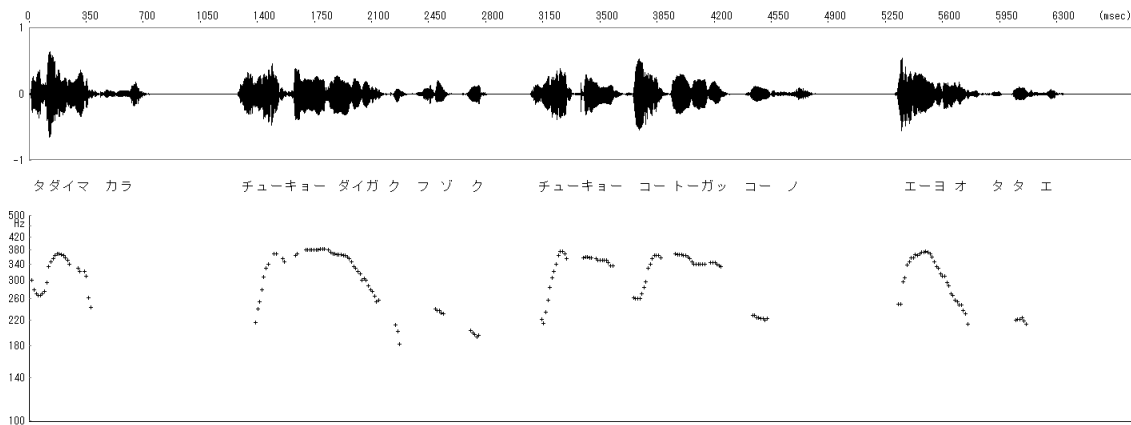


図 1-2 : 「ただ今から、//中京大学附属//中京/高等学校の//栄誉をたたえ、//」の基本周波数曲線

表 1-2 : 「ただ今から、//中京大学附属//中京/高等学校の//栄誉をたたえ、//」の発話及びポーズ  
の時間長

ただ今～	ポーズ	中京大～	ポーズ	中京高～	ポーズ	栄誉を～
730	539	1533	249	1729	494	1048

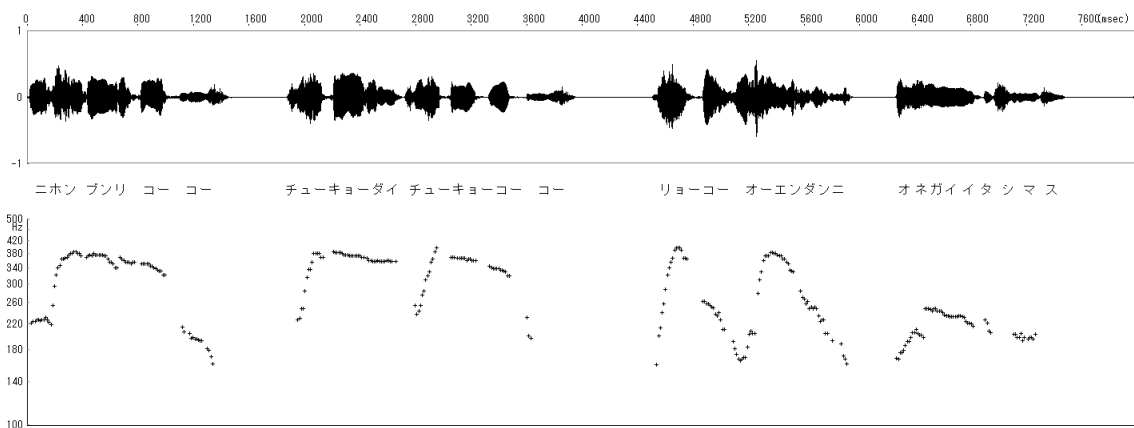


図 1-3 : 「日本文理高校、//中京大/中京高校、//両校/応援団に//  
お願いいたします。//」の基本周波数曲線

表 1-3 : 「日本文理高校、//中京大/中京高校、//両校/応援団に//  
お願いいたします。//」の発話及びポーズの時間長

日本～	ポーズ	中京大～	ポーズ	両校～	ポーズ	お願い～
1474	380	2079	547	1463	311	1226

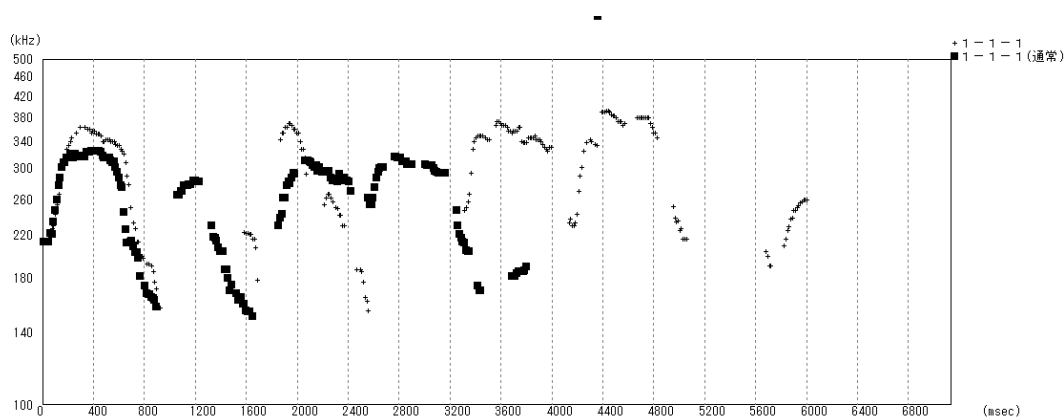


図 2 : 「ご覧のように//10 対 9 で、//中京大/中京高校が//勝ちました。//」における球場調(小さいドット)と通常調(大きいドット)の基本周波数曲線

表 2 : 「ご覧のように//10 対 9 で、//中京大/中京高校が//勝ちました。//」  
における発話時間長

球場調	6387
通常調	4146

### 3.1.2 「～の」に関して

後続部が形式名詞ではない「～の」の後の区切れについて報告する。今回の調査では全 32 例だったが、「～の//」が 6 例、「～の/」が 22 例、「～の」が 4 例というように、区切って読みあげるのが基本的な読み方のようなのである。先述した例では、(1)の「中京大学附属/中京/高等学校の//栄誉をたたえ、//」が「～の//」の例となるが、他の例もみていくことにする。

(3) 同校の//校歌を/演奏して//校旗の/掲揚を//行います。//

(場内アナウンスⅤ. 1)

(4) お帰りの際、//お席/付近の/ゴミは//近くの/くずかごに//お捨てくださいますよう//お願いいたします。//(その他Ⅲ. 4c)

(5) 打球のゆくえには、//くれぐれも//ご注意くださいませ。//

(その他Ⅲ. 1)

(6) 愛煙家のお客様は、//所定の/喫煙所をご利用いただき、//スタンドでの/おタバコは//ご遠慮くださいますよう//お願いいたします。//

(その他Ⅲ. 5a)

(7) 試合開始は、//13時//15分の<sup>8</sup>//予定でございます。//(その他Ⅳ. 1)

以上の(3)～(7)の用例について、基本周波数曲線を図 3-1～3-5 で、ポーズを含めた発話時間長を表 3-1～3-5 で示す。

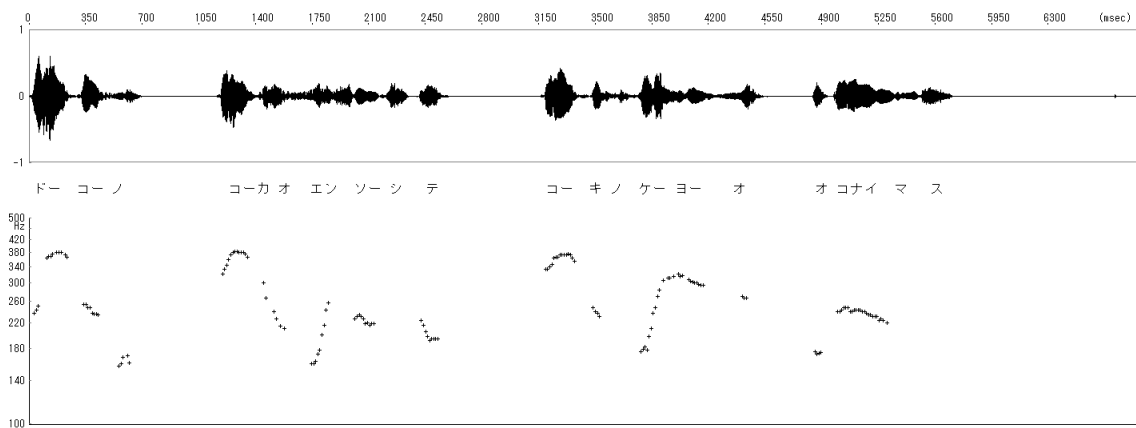


図 3-1 : 「同校の//校歌を/演奏して//校旗の/掲揚を//行います。//」の  
基本周波数曲線

表 3-1 : 「同校の//校歌を/演奏して//校旗の/掲揚を//行います。//」の  
発話及びポーズの時間長

同校の～	ポーズ	校歌を～	ポーズ	校旗の～	ポーズ	行い～
686	464	1442	578	1418	281	884

<sup>8</sup>時間について知らせる場合、「〇時//〇分」のように、一貫して間にポーズを伴う区切れを入れる。

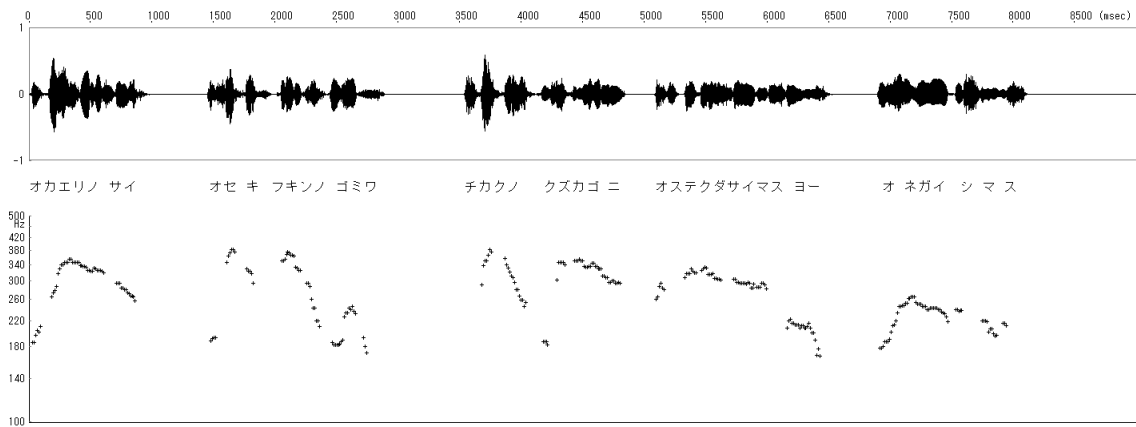


図 3-2 : 「お帰りの際、//お席/付近の/ゴミは//近くの/くずかごに//お捨てくださいますよう//  
お願いいたします。//」の基本周波数曲線

表 3-2 : 「お帰りの際、//お席/付近の/ゴミは//近くの/くずかごに//お捨てくださいますよう//  
お願いいたします。//」の発話及びポーズの時間長

お帰り～	ポーズ	お席～	ポーズ	近くの～	ポーズ	お捨て～
968	474	1488	630	1345	233	1475
ポーズ	お願い					
350	1228					

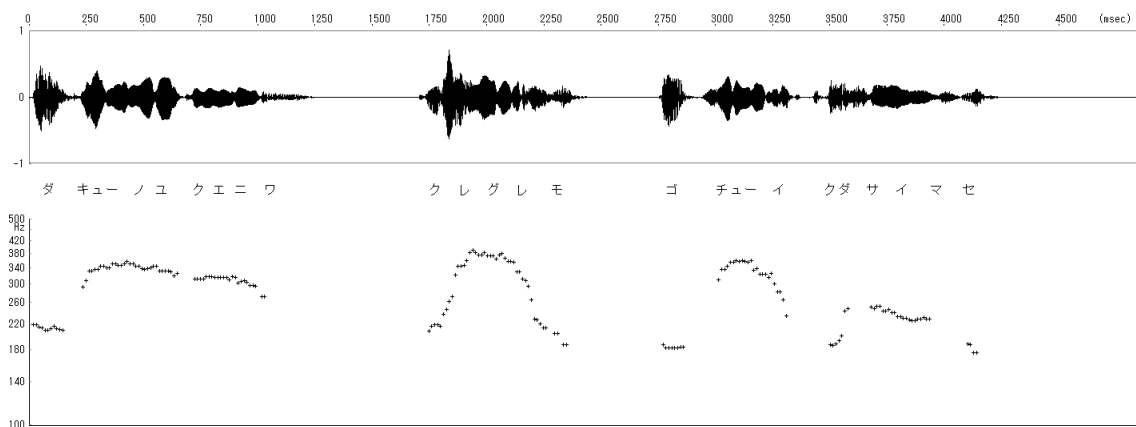


図 3-3 : 「打球のゆくえには、//くれぐれも//ご注意くださいませ。//」の  
基本周波数曲線

表 3-3 : 「打球のゆくえには、//くれぐれも//ご注意くださいませ。//」の  
発話及びポーズの時間長

打球の～	ポーズ	くれぐ～	ポーズ	ご注意～
1250	461	744	314	1498





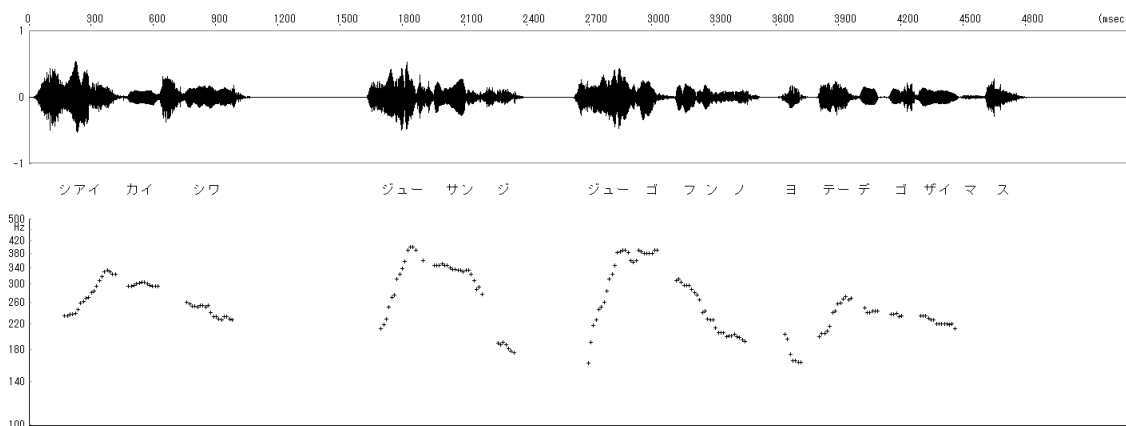


図 3-5 : 「試合開始は、13時15分の予定です。」の  
基本周波数曲線

表 3-5 : 「試合開始は、13時15分の予定です。」の  
発話及びポーズの時間長

試合開～	ポーズ	13時～	ポーズ	15分～	ポーズ	予定～
1073	561	761	242	892	100	1169

### 3.1.3 副詞的表現に関して

(5)の「くれぐれも」のように、副詞的表現は文頭なら後ろに、文中なら前後に区切れを入れる傾向がある。ポーズは必須ではない。以下、(8)～(14)で用例を報告する。

(8) 駐車場に/駐車しているバスは、//速やかに//お引き取りください。//

(場内アナウンス V. 2)

(9) また//お席を立たれる際には、//貴重品など//手荷物は//各自で/お持ちいただきますよう//  
お願いいたします。(その他 III. 5a)

(10) 球場内や/周辺で、//不審な物に/気付かれましても//決して/お手を触れず、//すぐ/お近くの/係員に//お知らせください。//(その他 III. 5b)

(11) ただ今から、//グラウンド<sup>9</sup>/の/整備をいたします。//(その他 IV. 1)

(12) おそれいりますが、//試合開始まで//しばらく//お待ちくださいませ。//(その他 IV. 1)

(13) 決勝戦、//日本文理高校対//中京大/中京高校の/試合、//まもなく//開始でございます。//  
(その他 IV. 1)

(14) ご覧のように//雨が/激しく/降ってまいりましたので、//試合を一時、//中断いたします。  
//(その他 IV. 2)

<sup>9</sup>「グラウンド／グラウンド」「ファウルボール／ファールボール」については、ゆれが観察された。なお、NHKの高校野球の実況では、「ファウルボール」にゆれがなく、一貫して「ファウルボール」であったことを確認している。

### 3.2 発話速度とポーズ

球場調と通常調の発話速度を対比する。発話速度は、ポーズを除いた発話時間長を分子、その中でモーラ数を分母とし、1秒あたりで何モーラ話しているか(単位：モーラ/秒)を算出した。結果として、表4に示すように、球場調の方が通常調より発話速度が遅く、両者の差異には有意差( $p<0.01$ )があった。なお、1モーラあたりの平均時間長は、球場調が116.1ms( $\pm 4.11$ )、通常調が141.9ms( $\pm 4.86$ )であり、両者の差異には有意差( $p<0.01$ )があった。

表4：球場調と通常調の発話速度の対比

	M	SD
球場調	7.1 モーラ/秒	$\pm 0.2$
通常調	8.6 モーラ/秒	$\pm 0.3$

ポーズについては、通常調は原則としてポーズを入れずに読んでもらっているが、「愛煙家のお客様は、//所定の喫煙所をご利用いただき、//スタンドでの//おタバコは//ご遠慮くださいますよう//お願いいたします。//」のように長い文であれば、途中でポーズを入れている。通常調では、「愛煙家のお客様は、/所定の喫煙所をご利用いただき、//スタンドでの//おタバコは//ご遠慮くださいますよう//お願いいたします。//」で読んでおり、全体の発話時間長7405msに対してポーズは430msで、全体の5.8%であった。一方で、球場調は発話全体の中に平均20.2%( $\pm 2.2$ )のポーズが含まれていた。また、球場調のポーズの平均時間長は435.6ms( $\pm 173.49$ )であった。

## 4 考察

### 4.1 区切れ

まず、句読点については、句読点がある場所の後には必ずポーズが入る。句読点の後のポーズについては、どんな発話であれ概ね異論のないところであろう。読点については、以下の結果が報告されている。高村(2013: 65)では、1分間の暗唱スピーチでの照合結果が示されており、一致率は平均74.1%であったと報告されている。杉藤(1986=1994: 131-132)では、アナウンサーのニュース読みあげにおける結果が示されており、読点の後には必ずポーズ(平均529.3ms)を入れていると報告されている。これらの点から、ニュース報道と場内アナウンスではアナウンスのあり方は異なるが、読点の後にポーズを入れるという点では共通していることが分かった。

ついで、基本的には文節に一致して区切れを入れていることが確認できた。ただし、「中京/高等学校の//」や「13時//15分の//」のように通常調では区切れやポーズが入らないところにまで入る。その結果、杉原(2012: 57)に示されたNHKのアナウンサーの音声では全体がゆるやかに下降していく音調になる点と比べると、球場調の基本周波数曲線は起伏が多くなっている。

学校名については文節による区切れの例外となる。学校名の読みあげ方については、球場調の特徴として大学の附属校および正式名称に対する区切れがあげられる。「〇〇大/〇〇高校」の場合には、「〇〇大」の後に必ず区切れが入り、「〇〇高校」の句頭で上昇調となる。これについては、通常調でも区切れについては同様であるが、球場調の句頭の上昇は通常調より変化幅が大きく、より一層区切れが強調されている。これについては、試合の結果報告以外に、試合終了後に片づけを指示する(場内アナウンスV. 2)、応援団への注意(その他III. 4)、天候不良時の試合開始時(その他IV. 1)においても一貫して同様である。なお、「高校」の前に区切れを入

れる例は1例もない。

また、勝利校をアナウンスする際に正式名称を読みあげる際には、「高等学校」の前に区切れが入る。従って、通常調では「〇〇大学附属/〇〇高等学校」となるのに対し、球場調では「〇〇大学附属/〇〇/高等学校」となる。この区切り方は、ニュースや朗読では通常みられない特徴の一つだと言える。

「～の」については、文節による区切れと一致する構造である。その中で、直後にポーズを置く例として(1)(3)があげられた。(1)については、勝利校の正式名称を強調するために、その前後にポーズを入れたと考えられる。(3)については、高校野球における以下の背景がある。勝利校は出場選手がグラウンド内で校歌を歌うことができる。そして、校旗については、試合開始時点では両校の後期が掲揚されているが、7回裏にいったん降納され、試合終了後に勝利校の校旗のみが再掲揚される。その点をふまえ、「同校の」は「校歌」と「校旗」の両方にかかる修飾語となっている。そして強調されるべきは、勝利校にのみ与えられた校歌斉唱と校旗掲揚であるため、「校歌」と「校旗」の前にポーズを入れて強調している。

直後にポーズを入れる例として、(1)(3)以外に<sup>10</sup>以下の例があげられる。

(15) 3 塁側の//前の/柵に立っていらっしゃるお客様。//危険ですから//スタンドで座って//ご覧くださいませ。(その他Ⅲ. 3)

(16) ポール後方の//横幕は、//スタンドの中断より//上の方へ//上げてください。(その他Ⅲ. 4)

(15)はお客様への注意喚起のためのアナウンスであるが、球場内では1塁側、3塁側、バックスクリーンなど複数の場所に対する諸注意事項がある。そのために、どこであるかを強調するために、直後にポーズを入れている。なお、(15)においては、「柵」にプロミネンスがかかっており、強めに発音している。

(16)は、応援団に対し横幕、旗、のぼりへの禁止事項を伝えるアナウンスである。ここでは、ポール後方にある何に対しての注意であるかを明確に伝えるために、「横幕は」の前後にポーズが入れられている。

これらのアナウンスは、なんらかのイベントの現場ではよく行なわれるであろうと予想されるが、球場調では怒鳴ることも怒った口調も使うことができず、試合中のアナウンスと同様の口調でしゃべらなければならない制約がある。よって、ポーズを用いた強調で、的確な注意をどのお客様に対して伝えているのかを明確にしていると言える。

また、「～の」の直後のポーズについては、(1)の「高等学校の//榮譽を」では表 1-2 に示したように 494ms、(3)の「同校の//校歌を」では表 3-1 に示したように 464ms となっている。このポーズの時間長は、ニュース報道の例と比べてみたい。以下は、いずれもアナウンサーの例である。「～の」の直後のポーズは、杉藤(1986=1994: 131-132)では、19例のうち11例(うち100ms未満が5例)にポーズがあり、平均時間長は127.5ms、最長で304msであった。岸・福盛(2013: 365)では、3例のうち3例ともポーズがなかった。以上のように、球場調の「～の」の直後のポーズが、ニュース報道のアナウンスより長いことが確認できた。

<sup>10</sup>(1)と(3)は、決勝戦とそれ以外の2パターンを録音したので、同様の文言を2回読んでもらっている。

(4)の「お席/付近の/ゴミは//」は2か所区切れが入っているが、ここで強調されるべきは片づけてもらいたい「ゴミ」である。よって、聴覚的には「付近の」の句頭の上昇より「ゴミは」の句頭の上昇の方が、変化が大きく聞こえる。

一方で、「～の」の直後にポーズがなかった例、すなわち文節に従わなかった例を(5)(6)で確認しておく。(5)の「打球のゆくえには」はファウルボールへの注意喚起である。ここで重要なのは「打球」であるため直後にポーズも区切れも入れなかったと推測する。(6)の「愛煙家のお客様」は、スタンドが全面禁煙であることを知らせている<sup>11</sup>。ここで重要なのは、球場にいるのはお客様であることは分かっているのに、お客様の中で特に「愛煙家」に向けて注意喚起することである。よって、「お客様」を強調する必要はないため、直後にポーズも区切れも入れなかったと推測する。ただでさえ、スタンドで吸えないことは分かっているのに、この部分を強調されると愛煙家の不快さが増すことは言うまでもない。「所定の喫煙所を」や「スタンドでのおタバコは//」という言い方で全面禁煙を強調しているのだから、これ以上はということで、呼びかけの部分は穏やかにすることで、愛煙家に配慮していると推察している。

最後に副詞についてであるが、副詞の後のポーズについては、高村(2013: 66)において「副詞のあとには中央値程度<sup>12</sup>～短いポーズが現れることが多いが、ポーズが出現しないこともある。」と述べられている。先述の通り、これは暗唱スピーチによる結果である。では、ニュース報道についてはどうか。杉藤(1985=1994: 63)における天気予報の例を確認する。

S1 西日本を覆っている//移動性高気圧は//次第に東へ移動し、//五日は//気圧の谷が通過する見込みです。//

S2 このため、//朝から//雨の降るところが多く、//日中は、//各地とも//時々雨になるでしょう。//

S3 また、//温暖前線の通過にともなって、//夜は//一時天気が回復するでしょう。//

S4 海では、//ところどころ//濃い霧のため見通しが悪く、//多少波があるでしょう。//

(アナウンサーがポーズを入れたところに//を示した)

ここでの例を確認する限り、「次第に」「時々」「一時」「多少」の前にはポーズがあるが後にはポーズがない。この点では、高村(2013: 66)の指摘と同様に、出現しないこともあるという点では共通している。それに対し、球場調では前後に区切れがありポーズが入る例があった。では、副詞の後に出るポーズの時間長を(5)を例にして検討してみたい。高村(2013: 66)では、出現するとすれば「中央値程度～短いポーズ」ということである。今回の調査での、球場調におけるポーズの中央値は461msであり、1拍分の長さの平均時間長は116.1msである。表3-3で示したように、「くれぐれも」の前のポーズは461ms、後のポーズは314msである。よって、「中央値程度～短いポーズ」の範囲内に収まっている。副詞に対して出現する、前のポーズと後のポーズのそれぞれの特徴をみれば、類する例があることが確認できた。しかし、これまでの研究と異なっている点は、前後共にポーズが出現する例があるという点であり、副詞を取り立て

<sup>11</sup>この直前に「当球場のスタンドは//全面“禁煙”となっております。//」というアナウンスがあり、禁煙は強めの発音になっている。ちなみに、マニュアルの表記で読みあげ部分にダブルクォーテーションがついているのは、このみである。

<sup>12</sup>「中央値程度」の基準は、高村・野原(2010)で示されており、ポーズの中央値±1拍分の時間長を指す。

て程度強調で読みあげる点も球場調の特徴の一つと言える。

#### 4.2 発話時間とポーズ

今回の調査での球場調の発話速度が 7.1 モーラ/秒であったのに対し、通常調は 8.6 モーラ/秒であった。この発話速度を他の例を比べてみたい。福盛(2008)では、2006年5月3日の全局のニュースの発話速度が示されており、最上(1999: 41)におけるアナウンサーの発話速度の経年変化(1960年代～1990年代)と比べて、1980～90年代に対し、2006年の結果は発話速度が速くなっているとは言えないと結論付けている。それをふまえて、2者の研究をとりあげたい。杉藤(1989: 355)では、1985年6月4日のニュースでの発話速度の変化が示されており、1秒当たりの拍数が 8.8→9.0→8.6 となった例があげられている。福盛(2010: 65)では、9名のアナウンサーの発話速度が示されており、平均は 9.3 モーラ/拍(±0.60)と計算できる。これらのニュース報道におけるアナウンスと比べると、球場調の発話速度は遅いということが確認できる。これはニュース報道と異なり、球場内での歓声の中でアナウンスするという発話場面に起因しているのではないかと推測する。今回は試合中の球場調をとりあげていないが、「1番//レフト//〇〇君」という読みあげは、高校野球好きにはよく知られているだろう。球場内、特に外野席からはバッターの姿はかなり小さく見えるもので、背番号だけで選手を見極められるのは熱狂的なファンか地元応援団ぐらいであろう。そういった人々でもたまに間違えることがあるので、確認のためにわざわざゆっくり丁寧に球場調でアナウンスしている。そうしなければ、歓声に包まれている中で聞き取ることは困難であることは容易に想像がつく。土岐(2011: 365)では、「ポーズはそれ自体が、聞き手に対して、その直前の内容を一時的に記憶させる機会を与えるもの」と述べられている。文節単位で通常調より多くポーズを入れるのも、聞き手に今何を言っているのかを考える時間を与えるために必要だからである。騒々しい中で興奮している観客に、何かを言っていることに気づかせ、聞き耳を立てて内容を理解してもらうために考えた球場調の方略であると言える。

最後にポーズの割合であるが、今回の調査では球場調は発話全体の 20.2%を占めることが確認できた。この値についてニュース報道では、杉藤(1989: 354)において 23%、福盛(2008: 208)において 20%という値が報告されている。両者の間で、発話速度は異なれども、ポーズの割合がさほど変わらないということが確認できた。的確なアナウンスをするには 80%話して 20%話さないというのが規範となるか否かについては、今後の他の研究報告を参照してから検討せざるを得ない。

## 5 結語

本研究で明らかになった球場調の特徴を以下に列記する。

- a. 球場調は原則として文節を基準にして区切れを入れ、通常調より区切れが多い。
- b. 区切れに伴う句頭の上昇調は、球場調の方が通常調より変化幅が大きい。
- c. 学校名については、大学の附属高校の場合は「〇〇大」の後に区切れがある。また、勝利校は正式名称で呼ばれるが、その際「高等学校」の直前に区切れがある。

- d. 「～の」の直後にはポーズが入る、ポーズはないが区切れがある、区切れがない、の3タイプに分かれるが、区切れがある例の方が多い。これらはどこを強調するかでタイプが決まる。
- e. 副詞的表現の前後に区切れがあり、前後共にポーズが入れる場合がある。
- f. 球場調の発話速度は、通常調ならびにニュース報道と比べると遅い。

個人におけるゆれは若干あるだろうが、訓練を受けてその通りに発話しているので大きな差が得られるとは考えにくい。しかし、機会があれば、他の人の記録も分析していく必要はある。また、これらの他にもまだ球場調ならではの特徴はあるのだが、基本周波数の詳細な特徴を含め、まだ分析が追いついていない。これらについては、今後の課題としたい。

### 【参考文献】

- 福盛貴弘(2008)「ニュース番組におけるアナウンサー・キャスターの発話速度 — 2006年5月3日のニュース番組を飼料として —」『大東文化大学外国語学部創設35周年記念論文集』191-209.
- 福盛貴弘(2010)『基礎からの日本語音声学』東京堂出版
- Guiraud, Pierre (1957) *La stylistique*. Paris: Edité par Les Presses Universitaires De France.(佐藤信夫訳『文体論—ことばのスタイル—』白水社、1959)
- 城生佰太郎(2012)『日本語教育の音声』勉誠出版
- 河西和美(2016)「ライブ MC におけるあおりの音声学的文体論」『実験音声学・言語学研究』8: 1-85.
- 岸幸恵・福盛貴弘(2013)「アナウンサーの発話特徴における音響音声学的研究」『外国語学会誌』42: 343-373.
- 郡史郎(1997)「日本語のイントネーション—型と機能—」『日本語音声(2)アクセント・イントネーション・リズムとポーズ』三省堂 169-202.
- 郡史郎(2006)「日本語の「口調」にはどのような種類があるか」『音声研究』10(3):52-68.
- 最上勝也(1999)「ニュース報道の読みの速さとその計測法」『言語』28-9: 40-43.
- 白井由香(2016)「高校野球のアナウンスにおける音響音声学的研究」大東文化大学外国語学部日本語学科卒業論文
- 杉原満(2012)「緊急の措置をとる必要があると言っています」再考 — 言語学から見る NHK アナウンサーのイントネーション論 —」『放送研究と調査』62-1: 56-72.
- 杉藤美代子(1985)「句読点と、発話における連続と区切り—天気予報の朗読に関して」『大阪樟蔭女子大学論集』22: 1-7(杉藤美代子(1994)『日本人の声』和泉書院に所収)
- 杉藤美代子(1986)「ニュースの報道における発話時間及び休止時間と発話速度—「サケ・マス」交渉の場合」『樟蔭国文学』23: 92-110.(杉藤美代子(1994)『日本人の声』和泉書院に所収)
- 杉藤美代子(1989)「談話におけるポーズとイントネーション」『講座日本語と日本語教育 2』明治書院 343-364.
- 高村めぐみ・野原ゆかり(2010)「日本語学習者が生成するフィラーとポーズの関係」『外国語教育研究』13: 66-77.
- 高村めぐみ(2013)「日本語のスピーチにおけるポーズの規範 私案」『比較文化研究』107: 63-73.

- 土岐哲(2011)「発話速度」城生佰太郎・福盛貴弘・斎藤純男『音声学基本事典』勉誠出版 363-365.
- Trubetzkoy, Nikolai S. (1939) *Grundzüge der Phonologie*. Travaux du Cercle Linguistique de Prague.7. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht(長嶋善郎訳『音韻論の原理』岩波書店、1980)



# Phonetic characteristics in the announcement over a PA system in high-school baseball

Takahiro FUKUMORI<sup>†</sup>, Yuka SHIRAI<sup>††</sup>

The purpose of this paper is to describe the phonetic characteristics in the announcement over a PA system in high-school baseball. Survey subjects are females who currently make announcements over a PA system. The following characteristics were observed as a result. (1) A pause is phrase-based, and a rising-tone is often observed at the beginning of the phrase. Such rising tone at the beginning of the phrase has a higher degree of change than regular speech. (2) A pause during speech lasts for 435.6ms on average, consisting of 20.2% of overall speech. (3) The rate of speech is slower in the case of an announcement over a PA system in a stadium than that of regular speech.

<sup>†</sup>*Faculty of Foreign Languages  
Daito Bunka University  
1-9-1 Takashimadaira, Itabashi, Tokyo 175-8571, Japan  
E-mail: ICG01649@nifty.com*

<sup>††</sup>*Member of the Japan Experimental Linguistics Society*